

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771000359
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホームさくらんぼ
所在地	〒555-0041 大阪市西淀川区大野2丁目1-14 (電話) 06-6474-9732

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年6月9日

## 【情報提供票より】(平成20年4月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての	3階 ~	4階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 4月 18日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	71歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	名取病院、ナトリクリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大阪市で医療法人として初めて開設されたグループホームで、母体の病院をはじめ、老人保健施設、ケアプランセンター等と併設されています。法人全体で地域に根ざした取り組みがなされており、地域の方の要望に合わせた「介護教室」が2ヶ月に一度開催され、ホームの職員が講師としての役割を担っています。また、職員に看護師が配置され、なるべく入院にならないように母体の病院とも連携し、ターミナルケアについても職員は一丸となってケアに取り組まれています。調理師だった利用者が調理で力を発揮されたり、趣味の将棋を楽しまれたり、アットホームな雰囲気が漂う中で、「楽しい我が家」となるように利用者へ寄り添うケアを大切にされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の結果を受けて、記録物への改定を行っています。利用者の日々の様子がより分かりやすい様式や職員の気付き、利用者の言葉が記録出来る様式に変更されています。また、毎日ミニカンファレンスを実施し、会議を定例会とするなど改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組めるように自己評価票を配付し、分担して作成され、最終的に管理者によりまとめられています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、自治会長、民生委員、地域包括等が出席する運営推進会議が2ヶ月に一度開催されています。ホームの活動や研修、人事異動、利用者の状況等の資料を事前に配布、報告されています。参加者からは地域の情報や他のホームの取り組み内容の紹介、今後の方向性等の話があり、有意義な場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が多く来訪時に、遠方の家族には電話でホームの様子を知らせるとともに意見や要望を聞くように心掛けています。玄関に意見箱を設置し、苦情窓口の案内もしています。また、家族会や運営推進会議においても意見や要望が出され、得た要望等は職員間で話し合い、ケアに活かされています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加し地域の盆踊りや月1回開催されるふれあい喫茶に参加し交流を図っています。地域の方の要望に応じて多くの方が毎回参加される「介護教室」が法人主催で開催され、職員が講師として参加しています。そこでパンフレットを配るなどホームのアピールも行っています。利用者には近所の方からの訪問があるなど交流も続いています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、ホームとしての理念を職員の思いを出し合い作成されており、ターミナルケアについて等状況に応じて理念の見直しもされていますが、地域密着型サービスとしての理念が掲げられていません。	○	実際の取り組みにおいて地域との関わりを大切にされたケアがなされています。今後、地域密着型サービスのホームとして、地域の中で利用者がその人らしく暮らし続けることや、役割についても理念に盛り込まれる事が期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念をリビングに掲げ、基本となる法人理念を申し送り時に唱和し確認しています。申し送り時やカンファレンス時、また日々のケアの中でも理念を念頭におきながら実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し地域の盆踊りや月1回ふれあい喫茶に参加し交流を図っています。地域の方の要望に応じて多くの方が毎回参加される「介護教室」が法人主催で開催され、職員が講師として参加しています。そこでパンフレットを配るなどホームのアピールも行っています。利用者には近所の方からの訪問があるなど交流も続いています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組めるように自己評価票を配付し、経験や資格に応じて割り振って作成され、管理者によりまとめられています。前回の評価を受けて記録物の改定等を行い、改善に向けて取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、民生委員、地域包括等が出席する運営推進会議が2ヶ月に一度開催されています。ホームの活動や研修、人事異動、利用者の状況等の資料を事前に配布し、報告されています。参加者からは地域の情報や他のホームの取り組み内容の紹介、今後の方向性等の話しがあり、有意義な場となっています。		

グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから直接の行き来はないが事務長を通じて市との関わり合いがなされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、来訪時に様子を報告したり、電話でも随時行っています。年2回写真入りの「さくらんぼだより」の発行も行っています。また、家族会を実施しその際にも報告を行っています。金銭管理は預かり金で対応されており、出納帳で管理し、来訪時に確認を得ています。	○	一歩進んでより定期的にたよりを発行したり、行事の報告・予定、日々の様子等が1枚になった一人ひとりの報告等を通して、更に家族との信頼関係が深まる事が期待されます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話でなるべく要望や意見を聞くように心掛けています。玄関に意見箱を設置し、苦情窓口の掲示もしています。また、家族会や運営推進会議においても意見や要望を得る機会としており、職員で話し合いケアに活かしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない異動ありますが、馴染みの関係でのケアが重視されています。また新しい職員には経験の長い職員がペアを組んで利用者との関わりを支援しています。また、経験のない職員には働きながら法人の学校で資格取得の講習を受講出来る体制も整えられています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の委員会活動にて毎月研修や勉強会が行われています。また外部研修にも出来るだけ参加しており、参加者は報告書を提出し、レジュメを配付して、伝達研修も行われています。また、院内発表や市の病院学会にてホームで取り組まれたターミナルケアの報告が最優秀作品となるなど実践における研修にも繋がっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府や市のグループホーム連絡会に積極的に参加し、勉強会や交流会を通して、サービスの質の向上を図っています。以前は職員相互の研修も実施されていました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者になるべく見学に来て頂けるように働きかけ、ホームの様子を見て頂いたり、訪問によって状況や環境を把握し情報を収集しています。また入居当初は家族への協力を依頼し来訪を促し、電話を掛けて頂いたり、早くホームに馴染んで頂けるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リビングに集まって過ごされる場合が多く、利用者同士の助け合いもあったり、味付け、野菜の切り方など能力を発揮され、職員は教わりながら一緒に過ごしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大阪府のグループホーム協議会版の様式を利用し、利用者の趣味などの把握に努めています。また、日々の会話の中で出来る限り思いの把握に努め、コミュニケーションの取りにくい利用者には声掛けをし、動作や表情から把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で利用者の思いや希望が把握できるようにしています。家族の意見も反映しながら、職員間ではカンファレンスを実施し、一人ひとりにそった介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画の作成は6か月に一度行われています。毎月モニタリングを実施し、またミニカンファレンスを通して職員間で話し合い、見直しが行われています。		

グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に合わせて病院への同行受診や往診の支援を行っています。訪問美容の受入の他、買い物や喫茶店へケーキを食べに行くなど個別の支援もしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞いています。法人である名取病院の医師による週3回の往診もあり、24時間の対応も可能です。また、他の医療機関についても職員が同行受診するなど連携を図っています。職員に看護師が2名配置されており、日々の健康管理もされており、安心した体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する思いを理念に掲げ、実際にもターミナルケアを行っています。本人、家族の思いを大切に、状態の変化に伴い医師との連携、家族の協力を得て、職員は方針を共有しながら一丸となってケアに当たっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応に気をつけており、呼びかけも基本的には「さん」付けであるが、家族の要望で馴染みの呼び方をされている方もおられます。同性介助を心掛け、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることの無いように配慮しています。個人情報等の書類は事務所のロッカーに保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掲示板には大まかな日程が掲載されていますが、出かけた希望があれば一緒に出かけ、個々の要望に応じています。また、趣味の貼り絵や季節の壁飾りなどの制作にも利用者の希望にそって支援されています。		

グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的には病院から食事が運ばれ、取り分け、配膳、後片付け等を行っています。週に一度は利用者の希望の献立で調理実習日が設定されており、買い物や調理準備や後片付けを職員と一緒にしています。介護度が上がり食事介助の必要な利用者が増えてくる中で、利用者と共に食事をとることが難しくなっていますが、出来る時には一緒に食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせた入浴は可能ではあるが、入浴への意欲は少ないため出来るだけ入浴していただけるようにチームプレイや声かけなどの工夫をしながら入浴に向けて支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から主婦や調理歴のある利用者には調理実習の際に野菜切りや味付けや洗濯物たたみ等で力を発揮して頂いたり、玄関の朝顔の水やりや、ごみ出しなど役割を持って頂いています。また、介護老人保健施設のイベントに参加したり、そこで出会った方と将棋を楽しんだり、日々の中でも楽しみ事や気晴らしの場面を一人ひとりに合ったかたちで支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	調理実習やおやつの買い物などに出掛けられたり、近隣の喫茶店にケーキを食べに行ったり、電車に乗って買い物や外出に出掛けたり、利用者の希望に合わせた支援がなされています。また近くのデイサービスに歩いて出掛けたり、隣にある病院の屋上庭園や公園にも出掛けられており、海遊館や動物園などの遠出もしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺の道路事情もあり、家族の了承を得て玄関は施錠されています。外出の希望があれば、一緒に出掛けるようにしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人の協力の基、ホーム同時で昼間・夜間を想定した避難訓練を行っています。併設、隣接の法人とのつながりがあり安心であるが地域への働きかけが充分ではありません。	○	今後、災害対策について運営推進会議で話し合ったり、地域の方に避難訓練等の参加を呼びかけ、協力体制を構築する事が期待されます。

グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立が提供されています。食事は一日のトータルで目標を設定し、一人ひとりの摂取量を把握しながら支援しています。水分摂取量も記録され、合計も出しています。また、利用者の状態に合わせてとろみを付けたり、ミキサー食の対応がなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が飾られ、廊下には入居者の作品である壁画やカレンダーが飾られています。入居者が集まるリビングには限られた空間の中でソファを置いたり、BGMを工夫したり居心地良く過ごせる空間づくりがされています。利用者同士の声かけや職員へのアドバイスもあり、温かい雰囲気が漂っています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居室には洗面所が備え付けられており、クローゼット、机・椅子、ベッドが設置されていますが、植物を置いたり、家族の写真を飾ったり、作品等も飾られ一人ひとりに合った工夫がなされています。		